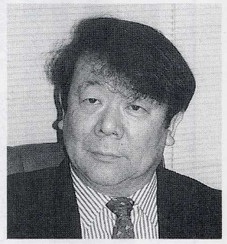
二十一世紀のアリストテレスたち

総合科学部長　生　和　秀　敏



武満徹は、何か心がうずくようで、春が嫌いだという。なんとなく分かるような気がする。入学式の浮き立つような春の賑わいの中に身を置くと、かつての青春の気負いが羞恥の感情と共によみがえり、失った年月への悔恨の想いが胸をよぎる。とりわけ、時間に隷属した生活を余儀なくされている現在、自由な時間の中に生きた学生時代への回帰願望はますます強くなっていくように思える。

昔、ギリシャ人たちは、自由であることが人間にとって最も大切なことであると思っていた。自由なことは暇を持つことであり、暇を最も有効に活用することは知性を磨くことだと考えた。時の流れを止め、思索に没頭することで、普遍的な真理に近づき、今日まで脈々と継承されている文化と文明の礎を築いてきた。これらはすべて暇のなせるわざといっても過言ではない。古代ギリシャ流に言えば、四年間という比較的自由な時間を得た君たちは、ささやかであるが二十一世紀のアリストテレスになる可能性を手にしたことになる。このことの価値と意味を改めて噛みしめてほしいと思う。

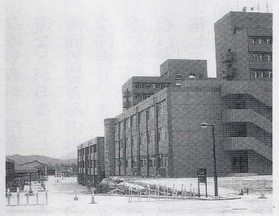
総合科学部は、自由な精神の発露である知的活動をこよなく愛する学部である。君たちが、無味乾燥な知識の呪縛から解き放たれ、自由な感性と知的好奇心を呼び起こすためには、自由な時間が何よりも大切であることを知っている学部である。大学生になったからといって急いで無理に狭い専門領域に自らを追い込む必要はない。少なくとも最初の一年間は、自由な時間を大切にし、自由で伸びやかな精神のすばらしさを精一杯満喫してほしい。そして、広い視野から自分を見つめ直し、新しい時代に生きる意志をまずしっかりと固めてほしい。それが今、君たちに期待するすべてである。

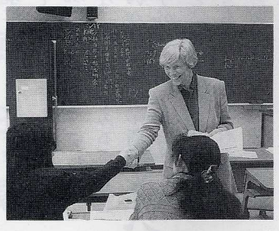
（せいわ・ひでとし）

情報を的確につかもう

総合科学部学生　田　中　裕　子

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。先輩として皆さんに伝えたいことはたくさんありますが、そのへんは周りの先輩が懇切丁寧に教味でも大きく変化しました。特に、生活の便、大学内の駐車場問題やサークル活動の保証など、これからの課題は多くあります。しかも総合科学部にいたっては、大学改革やらで人事が凍結し、教官数が減少しているという現状があります。





自分の生活は自分で決める。これが大学のいいところ。そのためには、先ず自分の大学の現状や社会の動きなどに敏感になり、周りに流されることなく、自主的な学生生活を送ることが必要だと思います。そのキーポイントが「情報」です。何も知らないことが一番楽なんだけど、一番恐ろしい。少なくともこの広大フォーラムをみている読者の人は、情報に敏感かな？　新入生の皆さん、これからの四年間どうぞ有意義に過ごしてください。

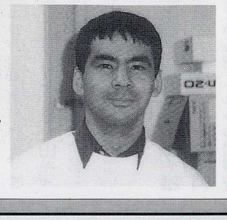
（たなか・ゆうこ）

えてくれるでしょう。私から伝えることはただ一つ「情報」についてです。

広島大学が西条に移転して、学生生活がよい意味でも悪い意

とりあえず激励

総合科学部学生　照　屋　敦



とりあえず、入学おめでとう。

本当は、入学しただけでは何もおめでたい事はない。だから、「とりあえず」と言っておこう。これからがはじまりなのだから。

ここでは、何でも自分のやりたい事ができる。西条という場が、大学という場が、それだけの可能性を持っている。あとは一人一人がそれを生かすかどうかにかかっている。

だから、不満があれば（楽しい事だって山ほどあるが）叫べば良いと思う。叫んでダメなら自分で動こう。動いてダメなら人を動かそう。そして、動きながら、常に考えよう。きっとその中から、自分の学ぶべき事が見つかるはずだ。

もっとも、こんな事は言うまでもないかも知れないし、言ってもしょうがないかも知れない。やってみなけりゃわからない。やればわかる。

これからの大学生活に精一杯取り組んで、卒業するときこそ「とりあえず」抜きで自分自身に入学おめでとうと言えるよう、（本当は自戒の言葉なのだが）皆さんに期待している。

（てるや・あつし）

ひろだいそうかはせかいにひとつ

にせライプニッツ考

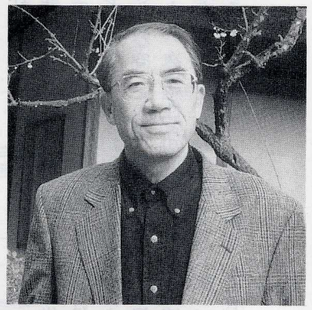
文学部長　向　山　宏

文学部正面玄関

澄みきった青い宇宙に、ポツンと丸い球がひとつ、浮かんでいると想像してもらいたい。鉄でできた球には小さな窓がひとつあって、出入口はない。そのなかに閉じこめられているのが人間であり、諸君の一人ひとりである。やや文学的に解釈しすぎているが、ライプニッツには人間をこのように観ていたふしがある。孤独といえば孤独であるが、退屈はしない。いろいろなものが窓の外を通りすぎて行くからである。人もたくさん通りすぎる。一緒にいても、小窓の視界外にあるものは見えないので、一緒にいながら、気づかない。

この比喩は、人との出会いの難しさを説明するために敷衍されることがある。球は自由に動けないので、出会いはすべて偶然といえる。相手には自分が見えていても、自分には相手が見えない場合もあり、その逆もある。片想いである。

うまく出会えても、自分が眠っている時には気づかないであろうし、考えごとをしていて、やり過ごすこともあろう。だから、たまたま相手の窓と自分の窓が向きあって、しかも、相手も自分を見つめあって心が通じるという僥倖は、まさに天文学的な確率で稀だということになる。かといって、一瞬の運命的な出会いというものもある。一目惚れである。



恋人との出会いに限らず、よき師や友だちも、探して見つかるというものではないかもしれない。目の前にいても、十年一緒にいても、出会いは起こらないことが多い。そして、あるとき瞬時に起こる。

たしかに偶然的ではあるが、これを偶然や運命というべきであろうか。こちらの心理状態や心構えに関係すると思われるからである。たとえば、心が充たされている春や夏、心を閉ざしがちな冬には出会いは起こりにくい。自然が凋落し、心が渇いてくる秋などに出会いは起こりやすい。いずれにせよ、人恋しく思う心が必要なのであろう。

新入生諸君が、この四年間のうちに、こうした稀有な機会を得て、よき友やよき研究テーマに巡り合われんことを。

（むかいやま・ひろし）

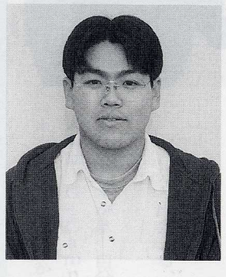
ロマンティック西条

文学部学生　池　上　学

新入生のみなさん、入学おめでとう。

みなさんは希望を胸に西条にやってきたことだろう。私も入学当初はそうであった。西条キャンパスに移ってきた頃は、澄んだ空気、美しい清流、戯れる小鳥たち―一年間、広島市内に住み都会派の傾向になっていた私にとって、非常に新鮮なものであった。

こんなすべての自然も、数か月たてばこんな恐ろしいことはなかった。美しい自然のはずが、いつの間にかいやになっていたのである。何度も私は自然を破壊しようと思ったのだが、五十億年もの間雄大に生きてきた自然の前で、私は無力であった。だから、私は、自然と共存しようと考えた。



元々自然派であった私にとって、こんなすばらしいところはなかったのだ。なんとここ五年の間に、西条では五十種類の動植物が広大生の手によって新たに見つけだされている。街灯のない西条は星が非常に美しく、恋人と二人だけの星座をつくることもできる。ここは二人のユートピア。素敵じゃないかｉｎ西条。ナウ　ロマンテック。

（いけがみ・まなぶ）

ハムラビ法典全景

ハムラビ法典（レプリカ）
文学部正面玄関で皆さんを迎える石柱で、バビロン第一王朝第六代の王ハムラビ（紀元前一七二九―一六八六）の編纂した法典の原寸大の複製品である。「復讐法」として知られる「目には目を」の文言は背面中央にある。

ハムラビ法典の部分